

西海ブロック水産業情報

NO. 103(平成30年10月～12月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>○有明海 10月25日に採苗開始。11月8日～12日まで、<i>Guinardia</i> sp. 赤潮発生により栄養塩が低下、同時にノリ葉状体の色調も低下。このため、ノリ網を沖の漁場へ展開する作業が停滞。 11月20日にあかぐされ病、壺状菌病を初認。あかぐされ病は、高水温に降雨が重なり病勢が拡大。 11月26日～12月13日まで<i>Chaetoceros</i> spp. 赤潮発生により栄養塩が低下、同時に色落ち被害発生(12月18日に色落ち回復)。 秋芽生産は12月26日まで行われ、生産枚数2億7282万枚(過去5年比84%)、金額37億9480万円(過去5年比95%)、平均単価13.91円(過去5年比+1.66円)。 冷凍網出庫は、時化予報のため12月29日の予定を12月30日へ延期。作業は順調に行われた。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・全体的に成長は順調。 ・11月下旬から販売開始。売れ行き好調。 【栽培関連】 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、網袋による干潟での放流試験を実施中。</p>	<p>○玄海 ・カサゴ: 5月上旬から下旬に約10万尾(全長40～50mm)を配布終了。6月下旬から8月中旬に約5千尾を(全長50～60mm)配布終了。 ・クロアワビ: 平成29年度産:殻長16.8～30.3mm約3.4万個飼育中(12月下旬)。 平成30年度産:11月上旬採苗約49万個体、11月中旬採苗約47万個体波板飼育中。 ・マナマコ: アオナマコは6月中旬から8月下旬に放流用(体長10～20mm)約68万尾を配布終了。アカナマコは7月上旬から9月上旬に放流用(体長10～20mm)約31万尾を配布終了。</p> <p>○有明海 ・ノリ養殖: 30年度漁期は10月25日から始まった。秋芽網期の生産は12月上旬以降、アカグサレ病および色落ちの発生により不安定であった。12月26日の秋芽網撤去までの生産枚数および生産金額は、前年度と比較してそれぞれ94%および92%であった。 ・カキ養殖: 太良町大浦地区で養殖されているカキは、夏季に大量斃死が発生した。11月の月収量見込み調査から、30年度の生産量は29年度比で38%程度と推定され、生産量は直近5年で最も少ないと想定される。出荷は12月14日に解禁された。</p>		<p>【10月】 シマアジでイリドウイルス病、レンサ球菌症(I、II型)発生 ブリ、カンパチでノカルジア症発生 クルマエビでピブリオ病発生 【11月】 アコヤガイにて赤変病を確認(国産員)</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・11月下旬から五島庁舎の指導のもとブリ種苗生産実証試験を実施</p>	<p>・県南の日南市南郷町におけるワカメ養殖開始 昨年度までの水産試験場によるワカメ養殖技術開発に基づき、今年度より宮崎県では初めて沿岸漁業者グループによる副業的ワカメ養殖が開始された。種糸は他県産を利用し、平成30年12月20～22日にかけて南郷町内2地区でそれぞれ幹網800m及び600m、30cm間隔又は20cm間隔で種糸の挟み込み方式により表層付近での養殖展開を行った。展開時の水温が約19℃であったが、冬場にかけて15℃台まで低下し、その後、魚類による食害の可能性が高くなる18℃に至る前の3月上旬頃を主に収穫を行う予定であるが、一部、伸長した分は2月中旬に漁協直販施設等を利用し、地場出荷した。</p>		<p>特記事項無し</p>